自己点検・評価報告書

日本語教育機関名：与野学院日本語学校

点検・評価実施日：2020/1/31

実　施　責　任　者：校長　谷　一郎

実施担当者名(役職)：教務主任　大知里　弘美、事務長代行　花田　涼

＜総論＞

昨年度に引き続き、規程に基づいた運営は、全体的に安定している。そのため、自己点検評価も目が厳しくなり、従来気にならなかったところも気になるようになった。それにより、新たな課題も見いだせたため、引き続き改善を継続していく。

＜教育の理念・目標＞

理念は、教員会議、校内での掲示を通じて、十分に周知されている。

＜学校運営＞

規程に基づいた運営は引き続き機能している。一方、中長期の運営計画、年度予算の編成と執行ルールの明確化については、大きな前進はなく、引き続き 2020 年度において改善を模索する。

＜教育活動の計画、実施＞

理念、教育目標に基づいた教育体系の規定により、2019 年度は、学則、教育課程の変更を入管に申請し、2020 年度に向けた準備を整えた。また、スキマ時間を利用し、日本社会への適応教育の試行を始めた。

＜成績判定と授業評価＞

成績判定、進級や卒業認定は、適切に行われている。

＜教育活動を担う教職員＞

教員の自己評価は、適切に行われ、機能している。教員・職員の評価制度は、入社後 3 年間を重点的に行う体制のところ、該当者がおらず、入社 3 年以上の社員に大きな問題も発生していない。一方、教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質については、改めて振り返ると、明示が不十分であるので、2020 年度において、改善したい。

＜学修成果＞

教育成果の判定は、適切に行われており、進路の把握も漏れなく行われている。しかし、卒業生の状況把握の仕組みがないため、2020 年度において仕組み作りに取り組む。

＜生徒支援＞

適応、生活、進路、在留等の支援は、概ね十分にできている。2017 年度以降、危機管理体制の整備が課題のままであり、引き続き 2020 年度の課題とする。

＜進路に関する支援＞
進路指導は、体系的に行われている。

＜入国・在留に関する指導及び支援＞
入国・在留に関する指導は、丁寧に定期的に行われているが、資格外活動の時間オーバーが社会問題化しており、アルバイト関連の指導も強化した。2020 年度は、資格外活動に関する一層の指導体制の整備が課題。

＜教育環境＞
教育環境については、概ね問題はない。

＜入学者の募集と選考＞
学生募集は、概ね問題なく行われているが、国籍の偏りが大きくなってきたため、より多国籍化の種まきを行っている。

＜財務＞
財務状況については、とりたてて問題はない。

＜法令遵守＞
コンプライアンスに関しては、2017 年度に法令遵守の推進体制を定め、現在も推進を行っているところである。

＜地域貢献・社会貢献＞
地域の交流行事には積極的に参加し、かつ地元の日本人を学校に招いて生徒との交流を深めてもらっている。同時に地域の日本語教育においても、一層の役割を果たすべく、地域の学習者を積極的に受け入れている。